

## 25日 金曜

### ガラテア

4:1 つまり、こういうことです。相続人は、全財産の持ち主なのに、子どもであるうちは奴隷と何も変わらず、

4:2 父が定めた日までは、後見人や管理人の下にあります。

4:3 同じように私たちも、子どもであったときには、この世のもろもろの霊の下に奴隷となっていました。

4:4 しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。

4:5 それは、律法の下にある者を贖い出すためであり、私たちが子としての身分を受けるためでした。

4:6 そして、あなたがたが子であるので、神は「アバ、父よ」と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。

4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神による相続人です。

4:8 あなたがたは、かつて神を知らなかったとき、本来神ではない神々の奴隷でした。

4:9 しかし、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうして弱くて貧弱な、もろもろの霊に逆戻りして、もう一度改めて奴隷になりたいと願うのですか。

4:10 あなたがたは、いろいろな日、月、季節、年を守っています。

4:11 私は、あなたがたのために労したことが無駄になったのではないかと、あなたがたのことを心配しています。

私たちはもはや神様の子どもであって、また相続人でもあります。相続するのは永遠の莫大な財産で



すが、それは地上の消えてゆくようなお金や権力などではありません。そのような天の財産は、地上でも主の恵によって必要なときには与えられます。マラキ書にあるように、主に信頼してささげる者には、天の窓を開いてあふれるばかりに注いでくださるのです。

また唯一の神ではない、「神々」というような人間が作ったものを拝んでいたときには、子どもではなく奴隷でした。なぜなら、何かをささげなければ救われないという縛りの中にあっただからです。

ですから、何かをささげなければ…というように、律法を守らなければ救われない、全うできないという生き方は奴隷のようなものなのです。

私たちは神の子どもであって奴隷ではないので、愛の中で生まれ、生かされ、そして成長しきよめられるのです。義務感から脱出して、神の愛の中で愛を感じて、愛に満たされて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

